

# 南山の風

## Walkathon チャリティフェスティバル



5月17日(日)に長久手のモリコロパーク(愛・地球博記念公園)で開催された標記のイベントに、中学生女子三人と一緒に参加してきました。

今回で24回目を迎えるこの大会。協賛企業の商品を体験するコーナーや、国際色豊かな屋台料理の前に、多くの人が行列を作るなど、大勢の人

で賑わっていました。子どもたちが昼食に選んだのは、インドカレー!!チーズのたっぷり入ったナンを美味しく食べていました。

このイベントで集められた収益金は、中部地区の慈善団体へ寄付されるのですが、その支援先に当施設も選ばれ、近年、寄付を頂いております。この支援金によって、中高生のスキー・

スノー体験行事“山の家”を実施していますが、あらためて、沢山の方の善意によって支えられていることに感謝の念を抱きました。施設では、沢山の招待行事が多く、“やってらえることが当たり前”といった意識になりがちな面がありますが、大人も、子どもも、感謝の心を忘れないようにしていきたいと思います。

<文責： 統括主任 北村清美>

Santa and Friends の  
へデンさんと一緒に記念  
撮影



# わんぱく相撲大会に参加！

毎年、子どもたちが名養クラブディキャンプでお世話になっている青年会議所の杉本会長を通じて、「わんぱく相撲名古屋大会」への参加案内がありました。青年会議所が主催する「わんぱく相撲名古屋大会」は、日本の国技である相撲を通じて、子どもたちに「礼」に代表される日本人の心を伝えるとともに、子どもたちがよりよく成長できる環境を地域の大人たちと一体となって創り上げたいという願いから企画されたものです。南山寮からは、小学生男子5名・女子3名が滝川小学校での予選大会にエントリーし、決勝戦への出場をかけて闘いました。四股を踏む姿がとても凛々しく、可愛らしく、力強さを感じましたが、現実はそのなにごとなく、全員初戦敗退となりました。子どもたちは負けてしまって悔しそうな様子でしたが、すぐに笑顔になって滝川小の体育館を駆け回っていました。たとえ負けても、何事にもチャレンジする心が大切なのだとわかってくれれば幸いです。



## 幼稚園の遠足でビーチランドへ！

5月8日 広路幼稚園の幼稚園がありました。

他の保護者の方と一緒に大型バス10台に乗り、南知多ビーチランドに行ってきました。お弁当をゆっくり味わった後は、イルカショーを楽しみ、子どもたちは笑顔あふれる一日でした。お小遣いで、玩具や、ママへのお土産を買っている女の子の姿もありました。

(文責：1Fリーダー 稲井予支子)

サメに食べられちゃう



## わくわく野球観戦～夢シート様ご招待～

いつもは男の子が参加することの多い野球観戦ですが、今回は女子会ならぬ女子のみでの野球観戦ということで、正直、野球のことなどよく分からないメンバーですが、やる気満々で出発しました。普段あまりTVで野球を見ることもなく、ドームでの観戦も初めてという子もいて、スコアボードを見ながら、「Hって何～？ホームランじゃないの？」と聞いたりしていましたが、阪神ファンの派手な応援にびっくりしたりしながらも、メガホンを叩いたり、選手の活躍を生で見、「ナニータ選手すごいね！」と目を輝かせたりと、試合はもちろん、ドームの雰囲気を感じる存分楽しむことができ、最後まで観戦したうえ、「また行きた～い。」と声をそろえていました。子どもたちに貴重な体験をさせていただけるのも、ご招待いただいている団体様のおかげです。本当にありがとうございました。(文責：3F児童指導員 堀尾都)





# 南山寮ふれあいバーベキュー



5月16日に南山寮で「ふれあいバーベキュー」を行いました。外で食べる食事というだけでも楽しいものですが、「みんなで」「一緒に」「作りながら」となるとより一層楽しいです。

朝方に雨が降っており、「もしかしたら中止になるかも」と子ども達からも不安の声が上がりましたが、子どもたちの願いが通じたのか、雨は上がって行きお昼には太陽が顔を出していました。

## 楽しくバーベキュー大会



「ボクも手伝う！」と言って大きな段ボールでカ一杯仰いでくれました。  
←小学2年生 K君

思い出！  
たくさん



↑職員も一緒に楽しみました



↑幼児さんもお外で一緒に



**子ども達も鉄板奉行**  
バーベキューコンロに火がつくと、子ども達が集まってきます。こちらが声をかけるよ



↓初めは小雨が心配でした



↓中高校生は準備したものです

り先に、手伝いをかってでくれます。子ども達にもそれぞれコンロの担当をお願いすると、職員たちに負けないうぐらい上手に焼き上げていました。

**笑顔でお腹いっぱい**  
火が怖くて近づけない幼児さんには、別の子どもがウェイターを買って出てくれます。



お腹が膨れてくると、いつの間にかグラウンドで遊んでいます。今日はいつもより子どもたちの笑い声が大きく聞こえた気がします。

(文責：保育士 妹尾善之)



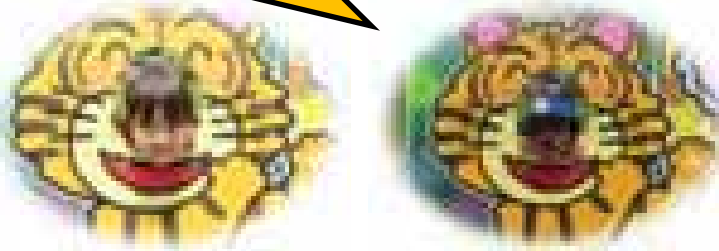


動物園に招待していただきました♪



名養連の遠足行事として、南山寮の幼児さん(オリオン)5人・職員3人で東山動植物園に行ってきました。  
 天気にも恵まれ、ぼかぼかで気持ち良く動物さんとも触れ合うことができ、子どもたちにとって、とてもいい思い出になりました。

ガオッ〜!!!カッコいいでしょ◎  
 わたしも、ぼくもカッコいい!!



ぞうさんの足ってこんなに大きいんだね♪  
 ぼくの手だけでは足りないなっ(\*▽`\*)



お昼は、厨房の方たちが作ってくれたおいしいお弁当!!  
 とってもとってもおいしく頂きました!♥



お弁当を食べた後は、頂いたお菓子はパクパクと食べました☆お弁当でお腹がいっぱいなはずなのに、お菓子は別腹です。(文責…1F係員 黒田純子)



＼おしよ／

＼ひっぱれ／

＼おしよ／

＼ひっぱれ！／



# 八事小学校

2015年5がつ23にち(土)

(文責: 2F 保育士 市野里江)

子どもたちも、そして職員も待ちに待った八事小学校の運動会の日がやってきました。予報では夕方から雲行きがあやしくなりそう…とのことでしたが、お昼すぎからは暑いほどのいい天気にはそわそわウキウキ。男の子の部屋では「赤組、負けてよ!」「白組が負けてよ!」と冗談を言い合いながら火花がバチバチです。赤組と白組に分かれて着席し、いよいよ運動会の始まりです。短距離走や大玉ころがし、棒引き、綱引きに台風の目。運動会おなじみの競技の数々で全力で競う子どもたち。見ている大人の方も、思わず力が入ります。



そんな中で心を和ませてくれたのが m i w a の「360。」のダンスと1・2年生のはなかつぱダンス、「みんなではらりるやつても、元氣いっぱい楽しそうに踊る姿が愛らしく、5・6年生は集大成、優雅な組体操で魅せてくれました。

お昼には厨房さんお手製のお弁当。美味しくて、どれだけ食べても足りない、足りないっ!おにぎり5つを余裕でペロリの子もいましたよ☆結果こそ赤組が大きく差をつけて勝利しましたが、どの子も頑張り、心に残った運動会になったのではないのでしょうか。





## 八事杖中ふしぎ散歩 ③

## 興正寺にある「潮の干満がわかる墓石」？

八事山興正寺には七不思議があるそうです。その七不思議の一つに「潮の干満の石碑」があります。東山の女人門跡から大日堂に向かう途中に「釈迦尊」と書かれた墓石があります。この墓石の裏には穴が開いており、穴の中に手を入れてみると、水に触れることが出来ると言われております。不思議なことに、この水は真夏でも枯れることはなく、さらに驚くべきことに、名古屋港の潮の干満によって、水位が上がったり下がったりするという話が実しやかに伝わっています。また、この水を舐めてみると塩の味がするとも言われており、この石碑の底は熱田の海につながっているのではないかという言い伝えまであるとのこと。ちなみに、この墓石の隣には、大正時代まで南山寮敷地内にあった「八代逸平の墓」と八代逸平が指導した「礮隊士（尾張藩の討幕隊の一つ）の墓」がひっそりと建っています。



### コラム 南山隼人 スリランカの大統領の左眼

インドの南にスリランカという島国がある。旧国名をセイロンと言い、その形から「インド洋の涙」「インド洋の真珠」と形容され、紅茶の産地としても有名な国だ。国民の7割が仏教徒であり、親口国としても有名だ。残念ながら、日本ではほとんど知られていない話だが、第二次世界大戦で敗戦国となった日本が、国際社会に復帰する筋道を作ったのは、後にスリランカの大統領となるジャヤワルダナ蔵相のスピーチだった。第二次世界大戦後の1951年、サンフランシスコ講和会議は、日本の国際社会復帰を話し合う会議であったものの、ソ連の執拗な反対工作に会い、日本の分断、主権の制限、高額な賠償金が俎上にのせられ、日本の前途は暗澹としていた。各国が自国の利害を考え、駆け引きを繰り返す中、セイロンの代表として出席したジャヤワルダナ氏。全くと言っていいぐらい利害のない「日本」に対して、むしろ日本軍の空襲をうけ、被害を受けた国の代表でありながら、強い決意を胸に秘め、「憎しみは憎しみによって止まず、愛によって止む（Hatred ceases not by hatred, but by love.）」という仏陀の言葉を用いて、日本を擁護する演説を続けたのだった。敗戦国に対して、利害を超えて「尊敬」と「共感」を表明し、日本の独立を強く支持、セイロンは日本に対する賠償請求を放棄することを表明した。ジャヤワルダナ氏の演説が終わると、万雷の拍手が沸き起こった。彼のこの演説が講和会議の流れを変え、日本の国際社会復帰を大きく後押ししたのである。ジャヤワルダナ氏の演説がなければ、日本は北朝鮮と韓国のように、北日本と南日本に分断統治されていたかもしれない。

親日家であったジャヤワルダナ大統領の逸話がもう一つある。スリランカでは、提供された角膜を国内外へ無償で贈る運動を行っており、日本にもこれまで約2800もの角膜が送られている。スリランカ国民から長年にわたり慕われ、多大な支持を得ていたジャヤワルダナ大統領は、数々の功績を残し、1996年に亡くなった。大統領は生前、自身の角膜を日本とスリランカの人に提供することを遺言した。大統領の遺志に従い、右眼はスリランカ人に、左眼は長野県に住む日本人に移植された。ジャヤワルダナ氏が自らの角膜を臓器提供したかったのは、自分の代わりに祖国スリランカと日本の未来を見届けたいという思いからだったのではないだろうか。だとすれば、ジャヤワルダナ氏の左眼に、今の日本の現状はどのように映っているのだろうか。

(リョウチヨウ)

平成27年 6月号  
(月刊：毎月1日発行)

<明治19年10月 第三種郵便物無認可>

発行：社会福祉法人 愛知育児院  
児童養護施設 南山寮

編集責任者： 施設長 山田 勝己

〒466-0835 名古屋市昭和区南山町5番地

TEL (052)831-3750 FAX (052)835-7483

e-mail: [nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp](mailto:nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp)